

VII 実践報告フォーラム

■ 開催概要

- ◆ 日時 : 2013年2月10日(日) 10:00~16:30
- ◆ 場所 : なごや地球ひろば2階 セミナールームA・B
- ◆ 参加者数 : 一般参加者106名、受講者37名、JICA7名、NIED5名、合計155名
- ◆ ファシリテーター : (特活) N I E D ・ 国際理解教育センター 伊沢令子
研修受講者

■ 今回のねらい

- ①【研修者】 実践報告、モデルプログラムのファシリテートと参加者との意見交換を通して、実践の自己確認、総括を行い、ネクストステップへの意欲を高める。
- ②【参加者】 実践者の成果と課題を共有し、自らの実践のヒントとネットワークを得てもらう。
- ③【主催者】 開発教育・国際理解教育を推進し、研修事業の次の参加者を広げる。

■ 開催の様子



アイスブレイキング



39人ポスターセッション(実践報告)



テーマ別ワークショップ体験



教師海外研修報告(ラオス)

■ プログラムの内容

● セッション1 「導入と各自の実践報告」 10:00-12:00

1. あいさつ・2つの研修の概要説明 10:00-[25]
 - ◇ 主催者（山本次長）があいさつを行う。開発教育指導者研修（実践編）および教師海外研修プログラムの概要をパワーポイントで説明する。
2. アイスブレイキング 10:25-[25]
 - ◇ フォーラムのねらいと1日のプログラムについて説明する。
 - ◇ 受講者1人と一般参加者2人の3人グループになり、次の3つ項目で、お互いを紹介し合う。自己紹介の項目…①自分のウリ、②気になる地球の課題、③受講者：持ち帰ってほしいこと、参加者：今日の期待。
3. 39人ポスターセッション（実践報告） 10:50-[65]
 - ◇ 前半30分の20人、後半30分の19人に分けて、拡大した実践報告シートや参考教材等を使い、ポスターセッション（実践報告）を行う。10分間を一つの区切りとし、1人3セッションの報告や質問を行う。
4. 午後のワークショップの案内 11:55-[5]
 - ◇ 午後からのテーマ別ワークショップの参加希望を挙手で確認し、希望者の多少を共有したうえで、人数調整を参加者をお願いする。

- 休憩 - 60min

● セッション2 「テーマ別ワークショップ体験」 13:00-15:10

1. テーマ別ワークショップ ①（A～Cチーム） 13:00-[60]
 - ◇ 3つの会場に分かれて、以下のA～Cチームが、概ね次のような流れでワークショップを実演する。→[成果1](#)参照
 - A分科会（テーマ：地球市民（国際協力））…「**国際協力ってワイルドだろう？**」
 - B分科会（テーマ：地球市民（環境・食））…「**世界の環境問題は自分とつながっている**」
 - C分科会（テーマ：貧困・格差・幸せ）…「**Good Bye 貧困 Hello! 幸せ**」
 - ◇ 移動10分
2. テーマ別ワークショップ ②（D～Fチーム） 14:10-[60]
 - ◇ 3つの会場に分かれて、以下のD～Fチームが、概ね次のような流れでワークショップを実演する。→[成果1](#)参照
 - D分科会（テーマ：人権・共生）…「**市長！ご決断を！**」
 - E分科会（テーマ：異文化理解（多様性受容・コミュニケーション））…「**多様な文化を楽しもう！**」
 - F分科会（テーマ：異文化理解（肯定的な出会い））…「**国際幸せ見つけ隊出動せよ！GO!**」
 - ◇ 移動10分

● セッション3 「海外研修報告・ふりかえり」 15:20-15:10

1. 教師海外研修報告（ガーナ） 15:20-[25]
 - ◇ 同行ファシリテーターによるチーム紹介後、ガーナクイズ、生中継風に出会った2人の専門家紹介、研修の様子のスライドショーを行う。
2. 教師海外研修報告（ラオス） 15:45-[25]
 - ◇ 同行ファシリテーターによるチーム紹介後、現地の踊り実演、ラオスクイズ、ラオス人に聞いたラオスの良いところ、幸せな時の紹介、研修の様子のスライドショーを行う。
3. ふりかえり・閉会 16:10-[20]
 - ◇ 各自、フォーラムのふりかえりをシートに記入する。→[成果2](#)参照
 - ◇ 受講者を代表して、星野百合子さんが、閉会のあいさつを行う。
 - ◇ JICA 中部の各推進員を紹介する。
 - ◇ 閉会后30分間、参加者と受講者が自由に歓談、交流を行う。

■ 主な成果物

● 成果1-1: Aチームワークショップの内容 (A1会場)

テーマ	地球市民(国際協力)	タイトル	国際協力がってワイルドだろお？
ねらい	国際協力に対する意識の変化や気づきを与える。		
ポイント	アイスブレイクって大事だろお？「へえ〜」って気づくって大事だろお？ 多様な価値観って大事だろお？ 国際協力がって、できそうだろお？ 参加型って楽しいだろお？ 君も今日から「地球市民」だぜえー		
参加者	合計 32 人	参加者 24 人	提供者 5 人 スタッフ 3 人
時間	プログラム	参加者の反応	
13:01	1. あいさつ(ファシリテーターの自己紹介) ◇プログラムを紹介する。		
13:05	2. 自己紹介(アイスブレイク) ◇グループで名前、得意なことを紹介し合う。		
13:10	3. なりきり自己紹介 ◇各自、配られた海外で働いている日本人の写真を見て、その人が何をしている人が想像してみる。 ◇写真の人になりきって、グループメンバーに対して自己紹介を行う。順番は一番遠くから来た人から。	・それぞれに背景を考えて自己紹介を行っている。役になりきって楽しい雰囲気で行っている。	
13:21	◇ファシリテーターが、写真はガーナで働く日本人であることを伝え、その人になりきって紹介を行う。 写真①…齊藤州紀さん。「ガーナで働く開発コンサルタントで、ガーナでは英語力が重要である。自分はTOEIC940点である。」 写真②…小和田和弘さん。「日本企業で、西アフリカのBPOビジネス(缶詰販売)を行っている。ガーナは冷凍技術がないので、内陸の人にも魚をたべてほしい、給食にもいつか使いたいと考える。」 写真③…諏訪戸せなさん。「ガーナの小学校で先生をしている。設備が少ない、時間にルーズ、鞭をもっていることがストレスである。しかし、体罰は話し合いをするうちに改善されつつある。」 写真④…北折裕之さん。「建設会社でガーナのODAに携わっている。ガーナは道が悪いので大変である。」 写真⑤…辻下健二さん。「ガーナでコメ作りを行っている。」 写真⑥…鈴木光子さん。「野口英世研究所で病原体の研究をしている。JICAプロジェクトに関わっている。」	・自分の写真と見比べて驚きの声があがる。	
13:32	・グループ内で感想を1人30秒で話す。		
13:38	4. 国際協力に必要なものダイヤモンドランキング ◇各自、国際協力がって聞くとどんなことを浮かぶが、2分でパッと思いつくものを付せんに書き出す。		
13:40	◇各自、以下の9つの国際協力に必要なもののうち、自分が考える1位と9位を付せんに書き、グループのテーブルの中央に出し、共有する。 ①勇気、②お金、③語学、④情報、⑤コミュニケーション、⑥健康・体力、⑦自国の平和、⑧LOVE、⑨思いやり	・1位に選んだ必要なもの傾向は次のとおりである。 ①勇気:1名、②お金:2名、③語学:0名、④情報:3名、⑤コミュニケーション:7名、⑥健康・体力:0名、⑦自国の平和:2名、⑧LOVE:5名、⑨思いやり:4名	
13:53	5. ふりかえり ◇今日の感想を一人一言ずつ発表する。	・主な感想…「教師をしているが、学生に国際協力は海外にでなくてもできると今日の経験を基に伝えたいと思った。」「みんな違ってみんないいと確認できた。」「自分の中で国際協力を改めて考えるきっかけになった。」	
13:57	6. 最後のメッセージ(ポイント)		



●成果1-2: Bチームワークショップの内容 (B1会場)

テーマ	地球市民(環境・食)	タイトル	世界の環境問題は自分とつながっている
ねらい	環境問題が自分とつながっていることに気づき、自分にできることを実行する。		
ポイント	おもしろかった。さあやろう！		
参加者	合計 44 人	参加者 36 人	提供者 6 人 スタッフ 2 人
時間	プログラム	参加者の反応	
13:00	1. アイスブレイキング ◇①呼ばれたい名前とどこから来たか、②行ってみたい国とその理由をグループで紹介し合う。	・ニコニコ笑顔である。 ・一人の自己紹介が終わると拍手が起きている。	
	2. フォトランゲージ<現在と10年前> ◇とある場所の現在と10年前の写真を見て、気づいたことをブレンストーミングにより出し合う。	・グループで、頭を寄せ合い、気づいたことを書き出している。	
13:10	3. 6人の人々のロールプレイ ◇グループで、市長、環境教育NGO、建設会社、農民、地域のこども、旅行者の6人(自然保護派と開発推進派に分かれている)を役割分担する。 ◇与えられた立場になり開発についての意見をまとめる。		
13:15	◇それぞれ開発についての自分の意見を言い合う。(市長から話を始める)	・自分の意見を言ったあとはフリーディスカッションとなっている。	
13:25	4. 10年後の未来を考えよう！<派生図> ◇グループで、与えられた役割を離れて、10年後、どのような場所になっていたらいいと思うかアイデアを出し合う。		
13:32	5. 望むまちにするために、自分にできることを考えよう！ ◇グループで自分たちが何をすることが望む未来を達成することにつながるのか、考え、できることをリストアップする ◇「これならできる！」ものを3つ選び☆印をつける	・たくさんの意見が出ている。	
13:45	◇グループのまとめを全体で発表する。	・各グループの発表内容は次のとおりである。 ①思いやりを行動に／自己肯定感／他者を誉める ②合成洗剤を使わない／ゴミ分別／行政に働きかけ ③公共交通機関活用／健康維持／仲良く ④自分が学んで伝える／公害を増やさない ⑤エコバッグ／節水／ゴミ減らす ⑥地産地消／選挙に行く／家族の時間を大切に	
13:50	6. プログラムのねらいと手法の説明	・静かに聞いている	
13:55	7. ふりかえり ・各自、ワークショップをふりかえり、感じたことをグループで共有する。その後、全体で何人かが発表する。	・全体発表の内容は次のとおりである。 「グループでリストを作る時、意見を出してもらおうための言葉かけが難しいと感じた」など	



●成果1-3: Cチームワークショップの内容 (B2会場)

テーマ	貧困・格差・幸せ	タイトル	Good Bye 貧困 Hello! 幸せ
ねらい	世界の問題は自分達につながっていることを知る。幸せに向けて解決策を考える。すぐに使える手法を体験する。		
ポイント	貧困について、前向きに考える。		
参加者	合計 46 人	参加者 37 人	提供者 7 人 スタッフ 2 人
時間	プログラム	参加者の反応	
13:03	1. 自己紹介 ◇グループで隣の人の好きなおにぎりの具を考え、発表し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・すでに打ち解けた感じで、笑い声も多数聞かれる。 ・ニコニコと自己紹介している。拍手の間こえるグループもある。 	
13:07	2. なりきり自己紹介 ◇各自、1人1枚配布された写真の人物になりきり、名前、年齢、何をしているか、好きな物など自由に考える。 ◇グループで、左周りでなりきり自己紹介を行う。(a) ◇ファシリテーターが写真の説明を行う。…「写真は自分がバングラデシュで撮ったストリートチルドレン」(b) ◇なぜストリートチルドレンになったのかを考える。(c) ◇4人の子どもに聞き取りをしたストーリーを読む。(d)	<ul style="list-style-type: none"> (a) 楽しげに相手の話を聞いている。それぞれに内容を工夫して声色を使ったりしながらなりきって自己紹介を行っている。 (b) 「ほー」「へー」などの反応がある (c) グループでいろいろな意見が出される。戦争、気候の影響など。 (d) 真剣な表情で読んでいる。 	
13:20	3. 貧困の輪 ◇グループで、貧困の輪カード8枚に関して、用紙の上側に「貧困」カードを置き、残り7枚の円状になる因果関係を考え、カードをテープで固定する。(a) ◇全体で2グループが発表する。(b) ◇ファシリテーターより解説を行う。…「貧困はつながり連鎖しなかなかに貧困から脱することが難しい」	<ul style="list-style-type: none"> (a) 5分ほどですべてのグループが作り終える。 (b) 前に出てきて、模造紙を持つ人2人、発表する人1人で説明している。発表後、他の参加者から拍手が起きている。 	
13:32	4. 貧困から抜け出すための手立てを考えよう！ ◇貧困の輪を断ち切るためのアイデアを出す。(a) ◇一人1本違う色のマジックを持ち、そのアイデアを活かすために必要なものを、派生的に考え、書き込む。(b) ◇ファシリテーターより作業の補足説明を行う。…「知恵を結集するため、いろいろな色が混じるように」 ◇他グループの模造紙を回し読みをして共有する。その際、「いいな」と思うものに「☆」、「質問」には「？」をつける。(c)	<ul style="list-style-type: none"> (a)(b) それぞれがペンを持ち熱心に書き加えている。派生図を使うことによってアイデアが深まっている感じを受ける。 (c) 「すごい！」「いろいろつながっていますね」「これはどういうことだろう？」など話ながら共有が進んでいる。 	
13:48	5. ふりかえり ◇グループの中で、「気づいたこと・発見したこと」を一人ずつ発表する。(a) ◇何人かが全体で発表する。(b) ◇ストリートチルドレンの未来に向けて活動しているシェルターホームについての情報を補足して終わる。	<ul style="list-style-type: none"> (a) 小さな拍手、うなずきながらの共有が行われている。 (b) 次のとおり多様な意見が出される。 ・総合的長期的な視点が貧困解決には必要である。 ・こうやって人のアイデアをつなげていくのが大切である。 ・貧困解決は、システム作りも大切だが人作りが大切である。 ・貧困問題は難しい。現地に入り、現地の人達とふれあいながら解決策を考えるといいと思った。 	



●成果1-4:Dチームワークショップの内容（B1会場）

テーマ	人権・共生	タイトル	市長！ご決断を！
ねらい	少数派が差別や排除の対象とならないために、必要なことを考える。		
ポイント	多数決は必ずしも正しい決断ではない！ 参加型を知って、やってみよう！		
参加者	合計 44 人	参加者 36 人	提供者 6 人 スタッフ 2 人
時間	プログラム		参加者の反応
14:00	1. プログラムのねらいの説明 2. アイスブレイキング「4つのコーナー」 ◇各自、次の事柄について、「OK」「どちらかといえば OK」「どちらかといえば NO」「NO」を考え、グループで発表し合う。また、なぜそう思うのかの考えを伝え合う。 ①お好み焼きにごはんはおかしい！ ②大人は運転してよいが子どもが運転はおかしい！ ③バレンタインにA君はたくさんチョコをもらったが、B君はもらえなかったのはおかしい！ ④A国では大統領を批判する記事を出版することが禁止されているがB国では禁止されていない		・「おかしい」「おかしくない」という問いかけに戸惑っている様子…
14:18	3. こんな時どうする？「ゴミ処理場をどの地域の作るのか！？ロールプレイ」 ◇各自、「こんな時どうする？」の資料を読む。 ◇自分がかもしも市長だったらどうするか、個人で付せんこに意見を書く(理由も考えながら) ◇グループで、それぞれの意見をKJ法で分類・整理し、全体像を共有する。		
14:25	4. 市長にプレゼンしに行こう！ ◇グループで話し合い、意見をまとめ、プレゼン用模造紙を作成する。		
14:45	◇全体でグループの意見をプレゼンする。	・各グループのプレゼン内容は次のとおりである。 ①調査をして適した場所に処理場を作ろう／立ち退きにはケアが必要／ゴミを減らすことが一番大切。 ②村民が学び、話し合い、考える場を作ろう／すぐには作らないで。 ③人も動物も住んでいないC地区に作る／市長はそこに住む。 ④まずはゴミを減量しよう／調査はしっかり／タウンミーティングを行う／メリット・デメリットを探る／その後公平なやり方で投票。 ⑤島内建設には反対／海を埋め立てる／資金を作るために公務員の給与カット／市長退職金なし／カジノ作る。 ⑥現状、情報を開示／建設するならばどの地域も関わる島の中心に！／調査には予算をつける。	
14:59	5. ふりかえり ◇ファシリテーターがプログラムの流れの説明を行った後、何人かが感想を発表する。	・ふりかえりで発表された感想は次のとおりである。 ・たくさん出たグループの意見が1つにまとまっていく過程がおもしろかった。 ・他のグループ発表を聞くと「それも良い！」と思えた。 ・身近な現実問題になったときは、ちょっと難しいかもしれないと感じた。	



●成果1-5: Eチームワークショップの内容 (B2会場)

テーマ	異文化理解 (多様性受容・ コミュニケーション)	タイトル	多様な文化を楽しもう! ~All different all just right~	
ねらい	異文化体験を通して、価値観が多様であることに気づく。			
ポイント	ありきたりな自己紹介ばかりではなく、ゲームを通してお互いを知ってほしい。あいさつのシミュレーションを通じた異文化体験…自分と異なったものと出会った時と自分と同じものと出会った時の気持ちを共有する。価値観が多様であることに気づく。学びを深める。			
参加者	合計 42 人	参加者 35 人	提供者 5 人	スタッフ 2 人
時間	プログラム		参加者の反応	
14:10	1. 自己紹介「今朝〇時に起きた誰々です」		・すでに和気あいあいとなっている。	
14:13	2. アイスブレイク「お土産み〜つけた！」 ◇カードをもらい、そのカードに書いてあるクイズの答えを机の中央に置いてある札から取る。(a) ◇答えたら次の人の番になり、ハイタッチで交替する。 ◇正解ならそのものを得られる。札の数で競う。 ◇他のグループが得たものを見て回る。(b)		(a)とても楽しそうにしている。 (b)興味深そうに見て回っている。	
14:20	3. 世界のあいさつゲーム ◇配られたあいさつカードを1人1枚引く。 ◇全体でカードに書かれたあいさつをしまわる。 ◇同じ国の人同士でグループに分かれて座る。 ◇あいさつゲームをしてみたの感想を共有する。(a) ◇もとの机に戻り、自分のあいさつを紹介し合う。		(a)「同じ人と出会うと嬉しいし、安心する。」「なかなか仲間に出会えないと、ヤバイと感じ不安になる。」などの感想があった。	
14:27	4. 異なる文化の人とも仲良くなるためには！? ◇「違う文化に出会った時」何が起きるか、ブレインストーミングで模造紙上に出し合う。(a) ◇ギャラリー方式で他のグループの模造紙を共有する。共感するアイデアに☆印を付ける。(b) ◇☆印のついたものを全体に向けて紹介する。(c)		(a)わいわいとたくさんアイデアが出ている。 (b)「へえすごい」「あー、やはりねー」「あ、これ、わかる」「あ、あいさつを覚えるか！」などのつぶやきがある。 (c)席に戻って「お、すごい！」「たくさん☆が付いてる！」などの感想が聞かれる。	
14:42	5. あなたはどっち、YES? NO? ◇付せんに、はい、いいえ、どちらかといえばはい、どちらかといえばいいえを書き、4枚のカードを準備する。 ◇ファシリテーターの出す質問に、4つのカードの中から最も自分の答えに近いカードを机に出し、それぞれなぜそのカードを出したか理由を伝え合う。(a) (質問抜粋) Q1: 目玉焼きには醤油をかける。Q4: 北枕だと落ち着かない。Q6: お風呂はお父さんが最初に入る。Q7: いじめはなくなる。Q8: 戦争はなくなる。 ◇気づいたこと、感じたことを共有する。(b)		(a)盛り上がり楽しんである。「楽しいな、コレ」という声が聞かれる。Q7あたりから話し合いが少し静かになる。腕を組んで話したり、歯切れの悪い感じが目立つ。 (b)主なものは次のとおりである。 ・初めての人ばかりなのに、意見を活発に話し合えた。 ・最後の質問で価値観が違うと思っていた人と意見があっ て感動した。 ・選択肢があると意見が言いやすい。	
15:04	6. ふりかえり「印象に残ったワークと感想」 ◇ワークショップをふりかえり、印象に残ったワークと感想を発表する。 ◇ファシリテーターが各ワークのポイントを説明する。		・印象に残ったワークと感想の内容は次のとおりである。 ・イエスノーゲーム。初対面の方を色々話しができた。 ・いじめ、平和、他の人と意見の共有ができてよかった。 ・日本人同士でやっても価値観は違うことがよくわかった。 そしてなぜそうなのかじっくりと聞きたくなる。	



●成果1-6:Fチームワークショップの内容（A会場）

テーマ	異文化理解 (肯定的な出会い)	タイトル	国際幸せ見つけ隊出動せよ！GO!
ねらい	世界の国の真実に触れ、共通点や相違点に気づく。新たな出会いを肯定的に受け入れ、より良い国について考える。		
ポイント	いろいろな考えを持った人たちと『幸せ』のかたちを考える。特別支援学校でもできるアクティビティ。		
参加者	合計 44 人	参加者 36 人	提供者 6 人 スタッフ 2 人
時間	プログラム		参加者の反応
14:07	1. あいさつ、アイスブレイク1国当てゲーム ◇参加者の背中に国旗を貼る。席を立て1対1で背中に貼ってある国旗に関する質問をし合って、自分の国旗を当てる。当たったら元の席に座る。分からなかった人は前に残ってその国のイメージを参加者全員で言う。		・楽しい雰囲気で行っている。
14:21	2. 世界の地域ごとにグループづくり ◇自分の国の地域ごとにグループに分かれる。「アフリカ」「ヨーロッパ」×2、「アジア」「北アメリカ」「南米」 ◇新しいグループメンバーに名前を伝え合う。		
14:30	3. 世界の瞬間をのぞいてみよう ◇配付された写真を見て、「どのような場面か」「どこの国か」などを各自考える。 (写真はグループ全員一緒のものを配付、合計3種類) ◇グループで考えたことを共有する。		
14:35	4. カクテルパーティー方式で写真の共有 ◇立ち上がり自分が考えた物語を違う写真の人に共有を行う。 ◇グループに戻って他グループでどのような写真があったかを共有する。		
14:45	5. 写真のタネ明かし ◇1枚目：ボリビアのカーニバル(水かけ祭り)。水は貴重なので最近ではスプレーを掛け合うようになった。 ◇2枚目：ラオスの田舎町の病院。食事はでない。入院しているのは家族から運ばれてくるご飯を食べる。 ◇3枚目：ガーナのお葬式。笑っている人が多いがガーナでは大音量で音楽がなっている。人の死は悲しいが、地域住民が集まりみんなで乗り越えようとしている。		
14:41	6. 幸せのかたち ◇幸せのかたちと聞いて思いつくものを箇条書きであげる。 ◇全体で共有を行う。	・出された意見は次のとおりである。 健康、仕事がある、家族、寝る瞬間、尊重される、笑顔、平和、自然が豊か、友だち、生命の保障、言動の自由、豊かな文化、教育が受けられる、大気を汚さないような燃料、自由な恋愛、空気がきれい、居場所がある、おいしい食べ物・お酒、自由、衣食住、安心・安全、人と人とのつながっている、綺麗なものを見た時、水が飲める。	
15:01	7. 1192 つくろう3カ条！ ◇グループごとに、幸せのかたちの意見も踏まえ、1192(いい国)の3カ条を作る。	・できた3カ条の内容は次のとおりである。 ①衣食住が保障/あらゆる生命が大切にされる/世界が平和になる ②人とのつながりを大切に/平和である/自然と共生すること ③いつもニコニコ/健康第一/意見がいっぱい平和な毎日	
15:08	8. ふりかえり・感想、おわりのあいさつ ◇何人かが全体で感想を発表する。	・ふりかえり感想の内容は次のとおりである。 「写真のワークがよかった。」「写真のワークでは先入観を持っている自分に気づけた。」	

